

「令和のとやま型教育研究委託事業」における読解力の結果分析に係わる講演会

7月29日（火）、標記の研修会を開催しました。富山国際大学の岩崎直哉先生を講師にお迎えし、『「読み解く力」育成のための授業と手立て～「標準学力調査の結果分析」とつなげて～』と題してご講話いただきました。市内の小・中学校から、教務主任、研究主任、ならびに希望教員の方々にご参加いただきました。

講演の一部をご紹介します。

○読めるとは、表象（イメージ）が構築されること

例文：赤ん坊が中核欠損症をもっていると、血液から十分に二酸化炭素を除去することができない。そのため、中核欠損症の赤ん坊の血液は黒ずんでいる。

・テキストベースとは

「なぜ、中核欠損症の赤ん坊の血液は黒ずんでいるのですか？」と子供に問うと、文章を基に「血液から十分に二酸化炭素を除去することができないから」と回答できるだろう。しかし、それだけでは読めているとは言い難い。理由は、なぜ、中核欠損症をもっていると血液から十分に二酸化炭素を除去できないのか、その症状をイメージできていないだろうから。

・状況モデルとは

「なぜ、中核欠損症をもっていると血液から十分に二酸化炭素を除去することができないのですか？」との問いに、中核欠損症とはどのような症状であるかイメージをもって回答できる姿が読めている子供の姿と捉える。つまり、授業では状況モデルが構築されるような支援が必要である。

○解釈の解釈

- ・人物の心情など、以前は自分が解釈できていればよかったかもしれないが、近年は友人が解釈したことを解釈することもが求められている。つまり、「解釈の解釈」が求められている。令和5～7年度標準学力調査の問題文は、教室空間を想定し、架空の学習者を登場させ、互いが解釈を述べ合い、物語の解釈を捉え直す問題が出題されている。このような交流を授業でいかに仕組むかが鍵となる。

岩崎先生の講話後は、2学期以降の「読み解く力」向上のための方策や方針について、学校ごとに（教務主任と研究主任とで）検討したり、各校の取組を紹介したりしました。



受講者の感想

<p>岩崎先生のお話はたいへん分かりやすく、とても勉強になりました。もっと聞いていたかったです。岩崎先生の授業も見たいです。</p>
<p>久々に岩崎先生の講演を聞きました。現場体験があり、大学時代の講義とは違った感覚で岩崎先生の考え方に触れられました。ありがとうございました。</p>
<p>子供たちにどう思考させるかについて、分かりやすかったです。</p>
<p>分からない人を大切にす、適切度を話し合う授業を授業改善の一つの視点として取り組みたいと思いました。</p>
<p>子供たちが、状況モデルをつくれるように直感に働きかける「問い」を大切にしていきたいです。</p>
<p>常識を疑うという先生の言葉から、新たな視点で今後の授業に臨めそうです。ありがとうございました。</p>
<p>参加者全体で結果を基に分析され、問題点について分かりやすい説明を聞きました。ありがとうございました。分析された問題点を克服し、子供たちに力を付けるための授業はどうあればよいか、読み解く力を構築するために日々の授業を改善していきたいと強く思いました。力を付けるための授業をどうするのか、どんな授業をしていけばよいかという具体例を出し合い、参加者全体で様々な例を共有する時間にするにより研修が高まると感じました。それが、みんなで集まる研修会では大事なのだと考えています。</p>
<p>読み解く力の育成について13のアイデアだけでなく、研修や他校との交流を聞いたことで本校にも生かせるアイデアを知ることができました。</p>
<p>1学期の授業を振り返りながら、研修を受けることができました。2学期、もっと子供同士が交流しながら、解釈の解釈の中で、自分の考えをつくったり、自分の学びにつなげたりしていくような授業を考えていきたいです。</p>
<p>大変勉強になりました。2学期、読解力を高めるために今回学んだことを実践していきたいです。もっとじっくり話し合ったり、講義を聴いたりしたかったです。</p>
<p>お話いただいてすぐにアウトプットできたことがよかったです。それも、実態が共有できる教務主任の先生と話げたことで具体的な話になって今後につながるものになったと思います。</p>
<p>岩崎先生の実践や解釈をお聞きできて、短い時間でも大変意義ある時間となりました。また、2学期への研修のモチベーションを上げる機会となりました。</p>
<p>正直、もう少しじっくりと岩崎先生のお話を聞きたかったです。大変参考になるお話ばかりでした。学力調査の分析を行うにあたり、点数や正答率だけを見がちですが、時間をかけてきちんと誤答分析をしなければいけないことを改めて感じました。また、本日の最後に「教師の発言等を見直す」ことについてもお聞きすることができました。例えば、タイマーを使うかどうかを考えた際にはタイマーの音によって思考が止まり、対話に時間を設けることがよいのかどうかという検討事項がある一方で、特別支援の観点からするとタイマーによって視覚支援になる場合があるのではないかと思います。自分の発言等を見直しながらも、児童の実態や様子によって変えていくことや授業を考える際に意図や目的を明確にすることが大事なのではないかと思いました。自分はもちろん夏休み中の研修会の際に他の先生方にも伝えて全体で読解力を意識しながら取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>読解力向上に向けて、具体的な手立てをたくさん知ることができました。今でも何気なくやっている・やろうとしていることが、読解力向上へとつながると改めて知り、もっと多くの方を巻き込んで取り組んでいきたいと思いました。</p>
<p>国語科の学習の取り組み方について貴重なお話を聞くことができてよかったです。岩崎先生が誤答の分析を授業改善に生かすこととお話されたが、全国学調の結果分析を今後の授業に生かしていきたいです。</p>
<p>講演やグループワークの時間配分にもっと工夫が必要だと感じました。</p>